

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西 区
学 校 名	大阪市立明治小学校
学校長名	酒居 国宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・明治小学校では、第6学年 52名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査では、国語、算数ともに、平均正答率で全国平均を上回った結果であった。それぞれの教科の領域別正答率でも、いずれも全国平均を上回る結果であり、バランスよく学力の定着が図られていることがうかがわれる。しかしながら、国語の「書くこと」の領域では、対全国比で10ポイント近く高い結果であったものの、正答率は40%に満たない結果であり、自分の考えが伝わるように書くための表現力に課題があることが明らかになった。算数の図形領域では、正答率が60%に満たない結果となっており、図形の性質を理解したうえで思考・判断できていない傾向が見られた。児童質問紙の回答状況から、児童の良さを認め励ます、児童に安心感を与える、読書活動を奨励するなど、これまで学校全体で取り組んできたことが、児童の意識に望ましい傾向として反映されていることがうかがわれる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕既習の漢字を文の中で正しく使う問題に対して、正答率が6割程度であり、漢字を活用できる力に課題が見られる。また、上記の結果の概要においても述べたように、図やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わりやすいように書き表し方を工夫できる力に課題がある。大阪市の「学力向上支援チーム事業」により、協働的な学習活動を大切に授業改善に取り組んでいるが、「話すこと・聞くこと」の領域における正答率が76%～84%と高くなっている結果に、その成果が表れていると考えられる。

〔算数〕図形領域の問題解決に課題が見られる。特に、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を適切に用いながら記述できない児童が7割以上いた。図形の性質を理解し、問題解決のための手がかりとしてそれぞれの図形の性質を活用できていないことが明らかになった。大阪市の「ブロック化による学校支援事業」を活用し、学習のふりかえりにつながる問題集を購入し、基礎・基本のドリル演習に取り組むことにより、知識・技能の定着を図ることができている。

質問紙調査より

学校全体で、児童を認め、褒め、児童とともに感動し、喜ぶ実践に取り組んでいる。その成果が、児童質問紙調査における回答に表れている。たとえば、質問番号5における「先生が自分のよいところを認めてくれている」と、肯定的にとらえている割合が94.6%にのぼっていることに表れている。また、質問番号10の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる」に対して、肯定的な回答が73.9%あり、全国の割合を上回っている。これらの点から、児童が安心感を抱きながら学校生活を送っているものと考えられ、その点が確かな学力の獲得へと結びついている。一方、質問番号7の「将来の夢や目標を持っている」に対しては、肯定的な回答が69.6%にとどまり、全国の割合を10ポイント以上下回っている。将来に願いや希望を持つことにつながる学習活動へと高めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語においては、新出漢字の習得のみならず、既習の漢字を日常的に書く文章においても積極的に使うように働きかけていく。
- ・読書が好きと回答している児童が70%を優に超えている状況なので、この点を生かし読書活動をさらに奨励し、読書を通して語彙力の向上や表現力、文章構成力の向上を図っていくようにする。
- ・算数においては、問題解決の見通しや方法について説明する機会を授業場面において数多く持つように学習過程を工夫する。そのような説明場面では、既習事項をはじめ、自分の考えの根拠になっている点を明確にしながら説明できるように支援していく。
- ・すべての学習活動において、協働的な学びの場を大切に、言語活動を活発にしながら学習を深められるよう指導法を工夫していく。
- ・今後も児童の安全、安心を最優先した学校づくりを前へと進めていく。

【 全体の概要 】

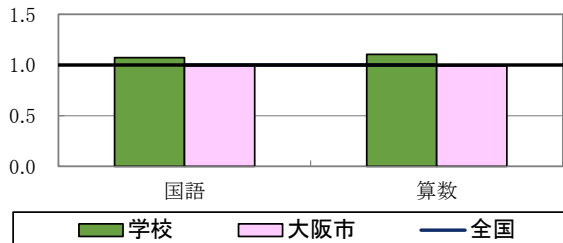
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	72	69
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

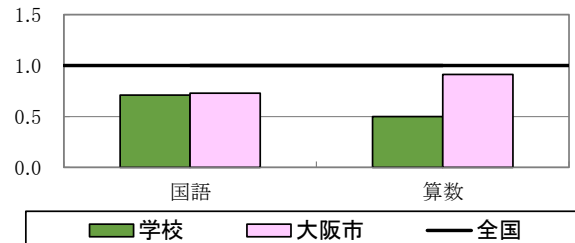
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.4	1.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



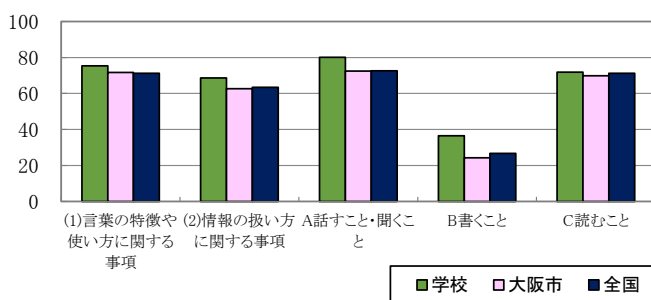
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	75.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	68.6	62.6	63.4
(3)我が国の言語 文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	80.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	36.5	24.2	26.7
C 読むこと	3	71.8	69.9	71.2

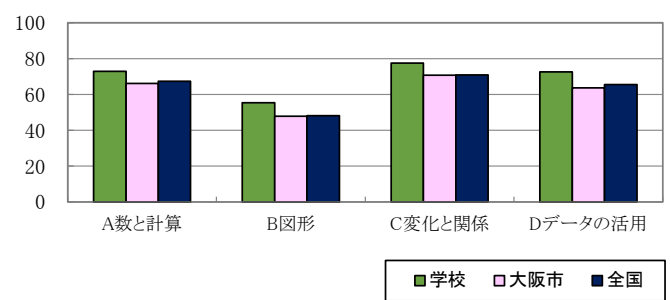
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	72.9	66.1	67.3
B 図形	4	55.4	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	77.5	70.8	70.9
D データの活用	3	72.5	63.6	65.5

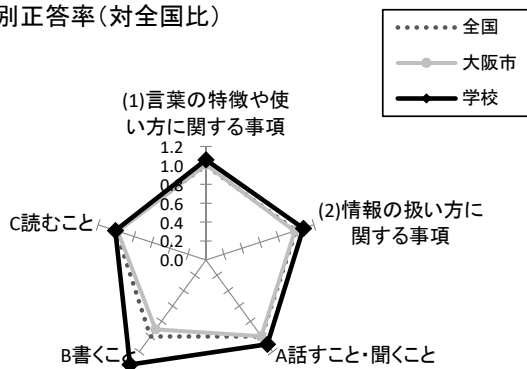
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



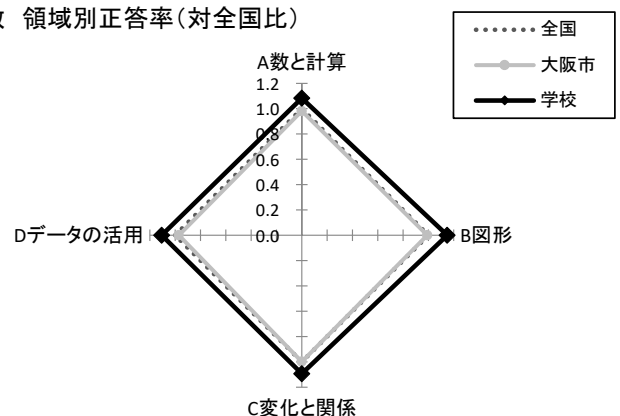
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

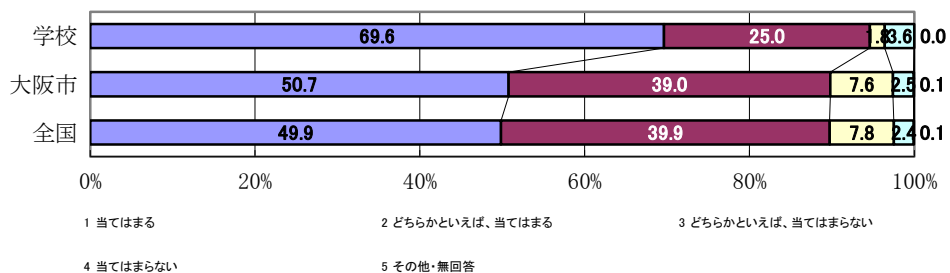
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

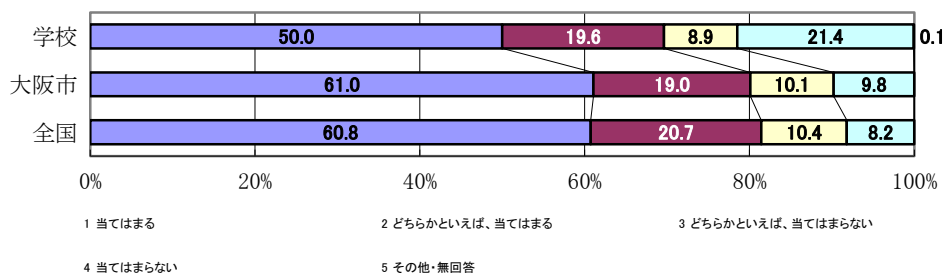
5

先生は、あなたのよいところを
認めてくれていると思う



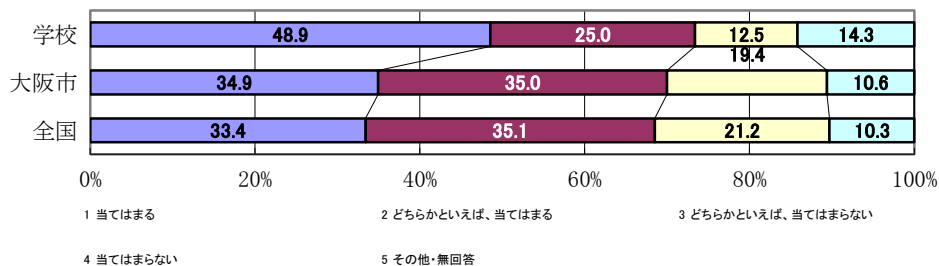
7

将来の夢や目標を持っている



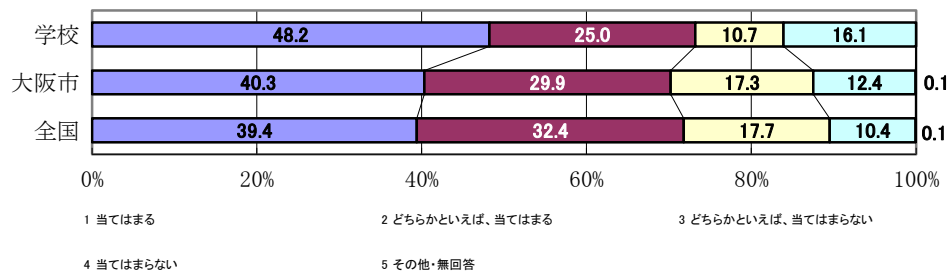
10

困りごとや不安がある時に、先
生や学校にいる大人にいつで
も相談できる



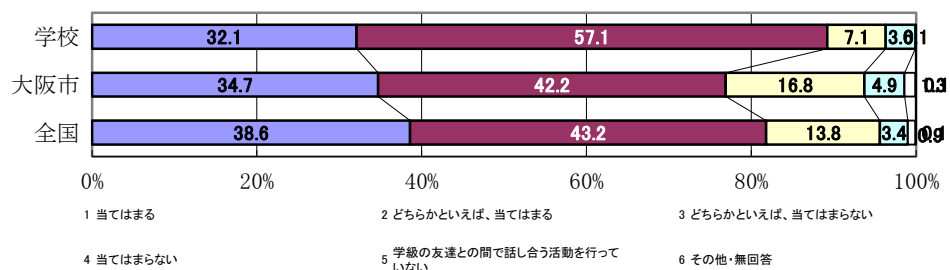
24

読書は好きですか



36

学級の友達との間で話し合う
活動を通じて、自分の考えを
深めたり、広げたりすることが
できていますか



学校質問紙より

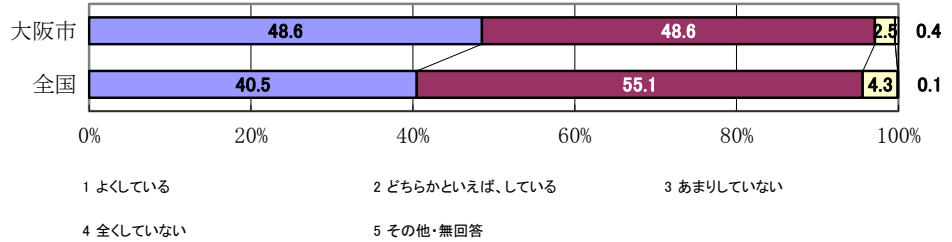
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号

質問事項

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる

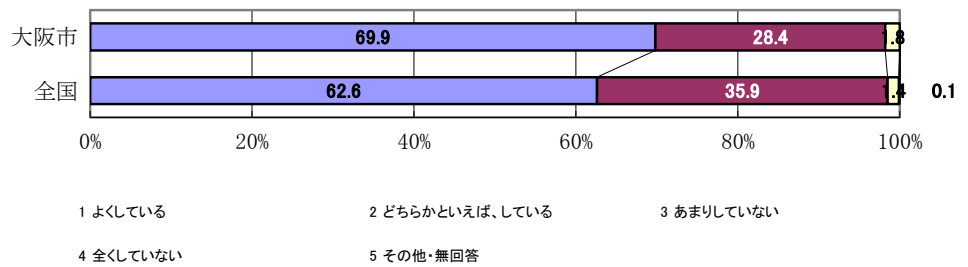
学校「どちらかといえば、している」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

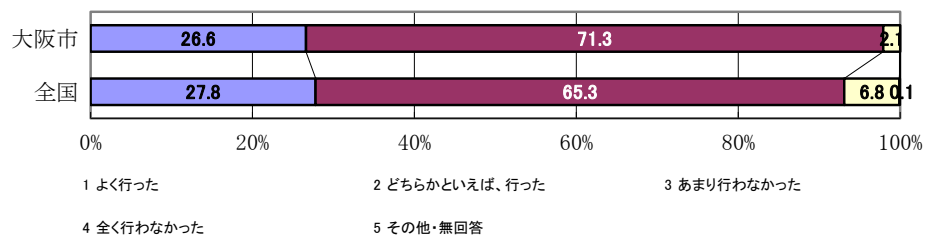
学校「どちらかといえば、している」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している

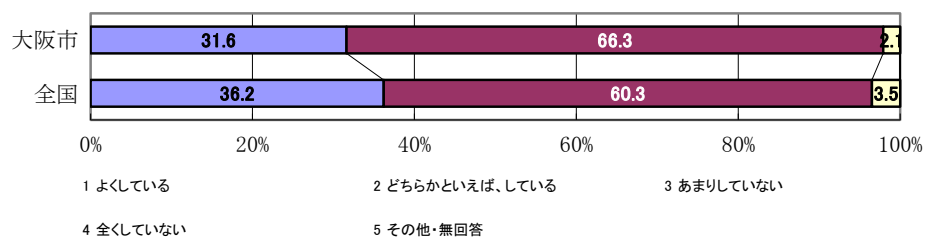
学校「どちらかといえば、行った」を選択



40

調査対象学年の児童に対して、特別の教科道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている

学校「どちらかといえば、している」を選択



教科に関する調査では、国語、

57

調査対象である第6学年の児童に対して、児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校「月1回以上」を選択

